

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2873600411		
法人名	医療法人社団 西はりまクリニック		
事業所名	西はりまグループホーム 昌仙庵		
所在地	兵庫県たつの市誉田町福田780 - 40 (電 話) 0791 - 62 - 5600		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成19年12月 5日	評価確定日	平成19年12月25日

【情報提供票より】(平成19年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 10人, 非常勤 6人, 常勤換算 13.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	40,000円	その他の経費(月額)	18,800円
敷金	(有)(120,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1	6	要介護 2	7		
要介護 3	5	要介護 4	0		
要介護 5	0	要支援 2	0		
年齢	平均 81.6 歳	最低 65 歳	最高 89 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西はりまデンタルクリニック・藤末内科
---------	--------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

昌仙庵という由来の名前にちなんで名づけられた『西はりまグループホーム昌仙庵』は、兵庫県たつの市の東部福田楽々山ふもとにあり、西はりまクリニックを母体としているホームである。同敷地内には社会福祉法人「円勝会」の運営する特養、西はりまグリーンホーム等の施設群がある為、地域にも福祉の里として根付いている。ホームには1階と2階の2ユニット18名が入居されている。管理者は3月に移動があったが、同法人であるクリニックの作業療法士ということで以前と変わらず安心できる生活となっている。又、クリニックやグリーンホームのバックアップがあり、医療、生活面でも大きな安心感となっている。当日は共有空間にこたつの設置があり、くつろいでおられる入居者の姿に家庭的な雰囲気が感じられた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:第三者4) 前回評価での改善点であった入居者の権利、義務の明示は契約書に分かり易く記載されていた。又、努力目標としても数点掲げ、取り組みが行われていた。日課となっている朝のチェア体操は前回よりの取り組み成果となっている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 職員はユニットごとに意見を出し合いながら自己評価に取り組んでいる。結果、個別ニーズを重視した外出、外食支援となっている。又、入浴援助の場面においても、より一層のケアの質への向上を目指し、希望に応じた入浴援助への取り組みを予定している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 5/10、8/23に自治会長、民生委員、家族会長、利用者代表、たつの市職員、地域包括支援センター職員の参加を得て運営推進会議が行われていた。会議では、活動内容の報告や災害対策への協力依頼が行われた。家族には、医療面で安心してもらっている。又、地域包括支援センターの方との話し合いにより、同業者の職員が集まる機会が設けられ、情報交換と勉強会が行われた。運営推進会議を市町担当者との情報交換を行う良い機会とも捉えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 面会時や年2回の家族会(総会と食事会)の活動、サービス計画書の作成時の機会を通じて意見、不満、苦情の吸い上げに努力している。最近では、家族の要望から入居者に応じたサービスへとつなげている例があった。今後はホーム独自のサービスについてのアンケートの実施や、家族会からの意見、要望という形で、要望を外部に表せる機会づくりを期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 自治会主催の笹の森コンサートへの参加や、老人会交流会では地域に出向き、スカットボール、ゲームを楽しまれている。又、地元の人々をクリスマス会に招待することなどが予定されている。地元の人々の交流により、認知症という病気の理解にもつながり、良い関係づくりが出来る。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念として「ホスピタリティを大切に、良質で心のこもった医療と介護を提供し、地域の医療と福祉に貢献する」を掲げ、その人らしくの生活を支援している。又、玄関の見やすい場所に理念を掲示している。	○	地域密着型サービスとしてのグループホームのあり方を考え、「ホーム昌仙庵」独自の理念も検討されることも今後の課題として捉えてもらいたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は名刺裏に理念を印刷し、常時携帯すると共に、理念を理解した「心を込めての接遇」の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の笹の森コンサートへの参加や老人会交流会では、スカットボール、ゲームを楽しまれている。又、地元の人々をクリスマス会に招待するなどが行われている。		地元の人々との交流により、認知症という病気の理解にもつながり、良い関係づくりが出来ている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を作成する際には、ユニットごとに職員に意見を出してもらい、取り組んでいる。結果、個別ニーズを重視した外出、外食支援や入居者の希望に応じた入浴への取り組み予定となっている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5/10、8/23に運営推進会議が行われており、活動内容の報告や災害対策への協力依頼が行われていた。家族の参加もあり、医療面では安心してもらっている。		今後の運営推進会議は、管理者と相談員にとどまらず、職員の参加も予定している為、より活発な意見交換会となることが期待できる。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員との話し合いにより、グループホームの勉強会が行われ、グループホームのサービスの質の向上に取り組んでいる。運営推進会議開催を市町担当者と行き来する機会にも活かしている。	○	運営推進会議での市町担当者との関係を今後のホームの発展、サービスの向上に是非活かしてもらいたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、写真入りの手紙で入居者の近況を報告するとともに、小遣い帳を送り報告している。又、家族の面会時には都度、暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や年2回の家族会（総会と食事会）の開催時、又、サービス計画書の作成時の機会を通じて、意見、不満、苦情の吸い上げに努力している。最近では、ご家族の要望から入居者に応じたサービスへとつなげている例があった。		ホーム独自のサービスについてのアンケートの実施や、家族会からの意見、要望という形で、より一層家族の要望を外部に表せる機会づくりをしてもらいたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3月には管理者の移動、4月に離職者があったが、入居者には事実を伝えることによりダメージは見受けられなかった。前管理者が訪問看護師としてホームに出入りできており、入居者の安心感にもつながっている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や希望を取り入れて、外部研修の機会を確保している。今年度は1名の職員が認知症実践者研修を受講し、受講職員による伝達講習が行われていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	11月に、たつの市、相生市、赤穂市の8ホームのスタッフが集まり、日常のケアのあり方についての勉強会が行われた。どのホームも同じ悩みがあることが確認でき、情報交換等が行われている。		「ホーム昌仙庵」がリーダーとなり、今後も定期的に勉強会を行い、スタッフの情報交換とケアの質向上につなげてもらいたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が安心してホームに馴染めるよう、家族が泊まったり、入居者の外泊を支援したりと段階的に行う体制がある。		家族、入所者に安心してもらうため、入居段階で説明できるマニュアルがあれば、尚良いのではないかと。又、サービス開始時のケアの大切さを職員全員が重視し、今後も実践してもらいたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に工夫した言葉の投げかけを行うことにより、入居者の知識や知恵を引き出し、職員が教えてもらっている。又、食事作り、特にお寿司作りは入居者の力を発揮する場面となり、職員が教えてもらう良い機会となり、お互いに支え合っている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を意思表示できる入居者は少なくなっているが、日ごろの入居者の行動から、問題解決ノートに職員の気づきを記入し、検討している。		入居者の言葉に出来ない思いの汲み取りに今後も力を注いでもらいたい。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それぞれの担当職員によりケアカンファレンスが行われている。3ヶ月後の評価、年2回の介護計画の作成が行われている。作成時には家族の意向を聞き、計画書に反映させている。体重の増加傾向の入所者には入所者の運動の意向を反映させた計画書を作成していた。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとの見直しを行うとともに、3ヶ月ごとに状態についての見直しの機会を設け実施している。現在は大きな変化のある入居者はいないが、現状に即した新たな計画を作成する体制はある。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が外泊する時は、本人や家族の状況に応じてホーム職員が自宅までの送迎を行ったり、自宅での数時間の滞在を職員が付き添いを行ったりと柔軟な支援を行っている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護師と医療連携を行い、主治医の受診の支援を行っている。又、眼科、耳鼻科の専門医の受診の支援を行っている。		透析の必要な入居者が生活されており、家族付き添いで透析の為の通院と、職員による生活支援が行われている。
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応マニュアル、終末期ケア対応指針を作成すると共に、訪問看護ステーションとの契約により医療連携が図られ、重度化した場合に備えている。		クリニックのバックアップと前管理者であり、現訪問看護師が毎週水曜日に入居者の健康チェックをしてくれていることが、医療面での大きな安心である。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	生活場面において、入居者の誇りを傷つけない対応を心がけていると共に、職員とは個人情報保護についての契約書を取り交わし、記録等の個人情報の取扱いの徹底に努めている。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩が日々の日課となっている入所者、買い物、仲良しグループでの花いじりとそれぞれの希望に応じて支援している。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は隣接の特養の栄養士によるものであり、食材が届けられている。利用者と職員と一緒に朝食、昼食、夕食の準備や食事、片付けを行っている。当日の昼食はてんぷらの献立であったが、美味しそうにほぼ完食しておられた。		月1回の希望メニューの日は順番に希望を聞き、楽しみとなる食事作りを支援している。又、入所者の力を発揮する場面でもあることを、職員は認識している。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	開設当初は週2回であった入浴支援が2年ほど前から週3回に増え、時間も13時半～と夕食後18時半～の2回行われている。	○	ホームは、より入居者の希望する曜日や時間に対応できるようにしたいとの思いがあるので、一層の工夫を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴から、それぞれの役割を見出し、献立を書いてもらったり、繕い物をしてもらったり役割を担ってもらっている。貼り絵の製作、習字、草抜き、音楽、お茶会、薬師寺参りと沢山の楽しみと気晴らしの機会がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や隣接の喫茶店、スーパー、100円ショップに出かけるなど日常的に外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を一步外に出ると、少ないながら車の行きかう環境にあるため、安全面を優先し、玄関は中からはテンキー式での開閉となっている。勝手口が自由に出入りでき、手すりを設置するなどし、出入りに安全な環境としている。	○	以前、階段で入居者が怪我をしたことがあり、保健所の指導から、1階と2階間の階段が利用できなくなっているのが残念である。何か工夫し、見た目にも開放的な環境となることを期待したい。

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、クリニックと合同で避難訓練が行われ、消化訓練も行った。火災等のマニュアルを作成し、自治会にも応援要請の働きかけが行われていた。		夜間の火災に備え、ホーム独自の訓練を定期的に行い、万全に備えてもらいたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝食、昼食、夕食の献立は隣接の特養の栄養士が行っており、カロリー計算が出来ている。職員は入居者の状態に応じて、摂取量や水分量の把握を行い、日々の健康管理が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると、ガラス張りの詰め所があり来客者や入居者の出入りが確認でき、安心できる造りとなっている。共用の空間にはこたつがあり、入居者がくつろげる場所となっている。こたつで食事を摂っている入居者がおられたり、昔懐かしい曲が流れていたり、居心地よく過ごせていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのタンス類等の家具が持ち込まれ、家族の写真などが貼られていた。どの居室もそれぞれ工夫があり、清潔な環境であった。		

 は、重点項目。